

この10年間の奈良県のがんにかかる現状・課題

進んだこと

◆県内のがん医療提供体制

- がんの専門的な医療を提供する拠点病院等を、南奈良総合医療センターを含め、県内に9カ所整備
- 手術療法、放射線療法、化学療法を組み合わせた集学的治療の提供
- 専門的知識・技能を有する医師・看護師等従事者の配置

◆県のがん死亡率は大きく改善

75歳未満年齢調整死亡率は10年間で、
全国34位から9位 →減少率は全国一

◆県の地域がん登録の精度が向上

データ精度が国際基準に
2011年～2013年症例の3年分のデータを蓄積

今後進める必要のあること

◆医療の質の充実

- 拠点病院等に人材と症例を集約

◆データに基づいたがん対策

- がん患者が医療機関を選択する際の比較データの整備
- がん登録データを活用したがん治療の提供
- 地域別やがん種別のデータ分析による有効ながん対策の実施（がんの罹患・死亡には地域差がある）

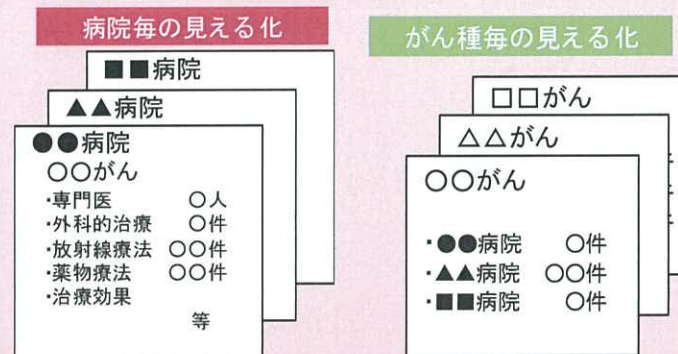
がん診療情報見える化事業

<平成30年度>

◆医療関係者へ診療情報が見える化

- 県内のがん診療情報を病院別、がん種別などを比較（病院間で情報共有）
- 病院の「強み・弱み」を明確化
- 県民への公表方法等の検討

(対象病院) がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院
奈良県がん診療連携支援病院 計 9病院
(がん診療情報となるデータの主なもの)
がん登録(院内がん登録、地域がん登録)、現況報告、
レセプトデータなど



<平成31年度～>

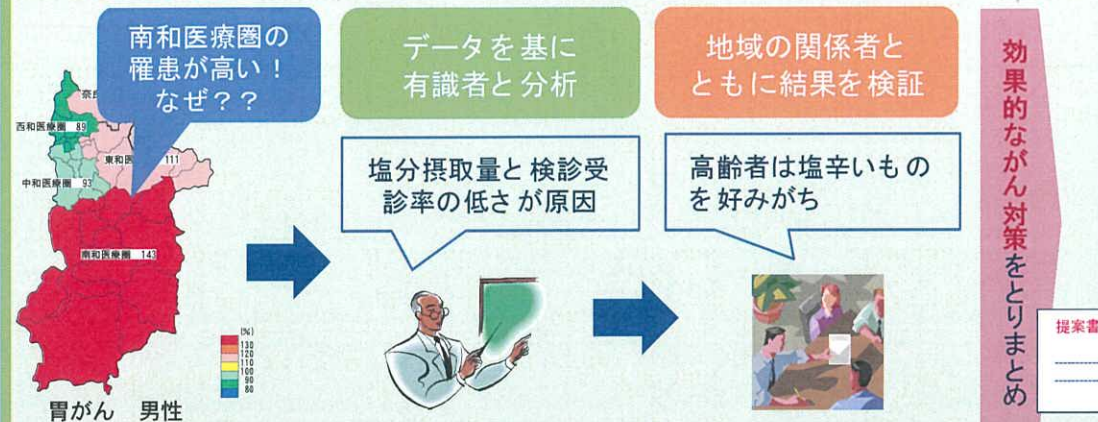
◆県民にわかりやすくがん診療情報を提供

地域別がん対策見える化事業

<平成30年度>

◆地域別・がん種別のデータ分析

- がん関連データを分析し、分析結果に基づいた地域における効果的ながん対策の取組を提案
たとえば…



<平成31年度～>

◆関係機関へがん対策の提言・医療圏の拡大

めざす姿

県内の「がん医療の質」が向上

- ・拠点病院等において技術力と治療の安全性が向上
- ・各病院が、より強みを活かすがん診療が提供可能
- ・県民が県内の病院を客観的に選べる

地域の課題が改善

- ・データや地域の声に基づいた、より説得力のある有効ながん対策を実効

がんで亡くならない県、
日本一へ